

# 令和7年度 鳥取県 英語教育改善プラン

【鳥取県が目指す小・中・高等学校で一貫した英語教育の姿】

## 目標

言語活動を通して英語 4 技能をバランスよく育成する  
**(小学校) 英語に慣れ親しみ、自分の考えや気持ちを英語で伝え合う力の育成**

言語活動
  指導と評価の一体化
  教師の英語力・指導力
  校種間連携
  ALTの参画
  ICTの活用
  AIの活用
  その他

(パフォーマンステスト含む)
 (専科教員含む)
 (AIを除く)

### 1. 目標に対する現状

①「言語活動を通じた指導」を中心とした授業づくりが進められている。

・授業の50%以上言語活動を行っている」と回答した学校の割合

	第5学年	第6学年
R5	94.2%	90.7%
R6	<b>91.5%</b>	<b>93.2%</b>

(令和6年度英語教育に係る鳥取県独自調査)

・言語活動を通して、自分の考えや気持ちを英語で伝え合う力の育成を、指導上努力したと答えた学校の割合

R6:**98.3%** (鳥取県学校教育実施状況調査)

①「英語が好き」と回答する児童の割合が学年が上がるにつれ下がり、引き続き改善が必要である。(R6:小3**91.2%**、小4**86.1%**、小5**80.4%**、小6**75.4%**)

②学校教育実施状況調査の結果から、「CAN-DOリスト」の活用を意識した学校の割合に課題が見られる。(R6:**49.6%**)

③県独自調査の結果から、小中連携を行った学校の割合が、依然としてコロナ禍以前の水準(R1:87.5%)を下回っている。(R6:**74.4%**小学校回答)

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

### 2. 要因分析

①各種研修会及び教育団体主催の研修会で、言語活動を通して指導することの具体を伝えてきたことで、県内全域に「言語活動を通じた指導」の考え方が浸透してきたことが考えられる。

①児童の興味・関心を引き出し、意欲を高める言語活動の質が十分でないことが要因と考えられる。また、教員の英語力や指導力にも差があると考えられる。

②ほぼ全ての学校で「CAN-DOリスト」は作成されているものの、その活用が十分になされず、単元末や年度末に何ができるようにすれば良いかを明確にした指導になっていないことが考えられる。

③小中連携における情報交換は促進されつつあるが、学びの連続性を意識した指導の必要性や具体についての理解が不十分であると考えられる。また、取組に地域間の差が大きい。

### 3. 目標を達成するための施策・事業

①①**児童の英語学習への意欲及びコミュニケーション能力の向上の推進**

・小学生のための1DAYイングリッシュ(1日×2回×2会場)

→ALT等のネイティブスピーカーと英語を使ってコミュニケーションを図る場を創出

・外部試験(英検ESG)を活用した児童生徒の英語力向上事業

→年間を通じた学習指導と評価に使えるワークシートの活用と、児童の英語力の客観的指標に基づいた把握による指導の充実

・オンラインスピーキング補助事業

→オンライン英会話及びAI型英会話を導入する自治体を財政補助

①②③**教師の指導力向上の推進**

言語活動を通じた指導の充実を図るため、各種研修会等を開催

・小学校英語専科教員等連絡協議会の開催(2回)

・小学校英語専科教員訪問

→外国語担当指導主事等が県内の新規英語専科配置校を訪問し、授業参観及び事後協議を行い、授業改善と専科の活用を促進

・各種研修会(動画配信含)

小学校外国語研修(英語専科等指導力向上研修を兼ねる)※教科調査官招聘

教育課程研究集会

⑥**校種間連携の推進**

・鳥取県英語教育推進フォーラム

→小・中・高等学校全ての校種の英語担当教員を対象とし、校種間の学びの連続性に関する実践発表や外部講師による講演やワークショップを実施

①**教員の英語力向上**

→小学校教員採用試験において、英検準1級相当以上を有する者を第一次選考試験免除とする。

# 令和7年度 鳥取県 英語教育改善プラン

【鳥取県が目指す小・中・高等学校で一貫した英語教育の姿】言語活動を通して英語4技能をバランスよく育成する

## (中学校) 自分の考えや気持ちを英語で伝え合う力の育成

- CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6: 52.5% ⇒ R7: 54.0%)
- 授業における言語活動時間が50%以上の学校の割合 (R6: 67.8% ⇒ R7: 80.0%) ※県独自調査
- 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を活用している学校の割合 (R6: 62.5 ⇒ R7: 70.0%) ※県独自調査

言語活動
  指導と評価の一体化
  教師の英語力・指導力
  校種間連携
  ALTの参画
  ICTの活用
  AIの活用
  その他

(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

### 1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①CEFR A1以上の英語力を有する生徒の割合が向上している。  
(R5:51.0%⇒R6:52.5%)
- ②全国学力・学習状況の生徒質問調査の結果から、全領域で言語活動実施状況の改善が見られる。

領域	R5値	R6値
聞くこと	80.6	83.7
読むこと	82.9	86.8
話すこと(やりとり)	67.6	72.0
話すこと(発表)	79.8	81.2
書くこと	84.6	86.3

未だ改善が必要な点

- ①県独自調査の結果から、授業における言語活動時間が50%以上の学校の割合は増加しているが、7割に満たない。  
(R5:64.9%⇒R6:67.8%)
- ②学校教育実施状況調査の結果から、「CAN-DOリスト」の活用を意識した学校の割合に課題が見られる。(R6:62.5%)
- ③県独自調査の結果から、小中連携を行った学校の割合が、依然としてコロナ禍以前の水準(R1:87.5%)を下回っている。  
(R6:77.6% 中学校回答)

### 2. 要因分析

- ①全公立中学校3年生(義務教育学校9年生)を対象に外部試験を実施したことにより、客観的指標を基にした生徒の英語力の把握が可能になったことが要因であると考えられる。
- ②①令和3年度から全公立中・義務教育学校(後期課程)(以下、「中学校」)を外国語担当指導主事等が訪問し支援を行ってきたことや、各種研修会を開催してきたこと等によって、県内全域で、言語活動の実施についての理解が一定程度図られたことが考えられる。一方で、授業での言語活動実施割合には課題があり、目的、場面、状況等の設定、中間指導等の状況に学校間で差が見られることから、「言語活動を通じた指導」の意義や具体について理解し、日々の授業で実践することが不十分であることが考えられる。
- ③学年末や単元末にできるようになることを明確にした単元構成や授業構成の考え方の理解が不十分であることが考えられる。
- ③小中連携に係る取組に地域間の差が大きい。

### 3. 目標を達成するための施策・事業

- ①①生徒の英語力向上の推進
  - ・外部試験を活用した生徒の英語力向上事業  
→中学校3年生に4技能型、1・2年生に2技能型の英検IBAを実施。生徒の英語力について経年での伸びや過年度との比較ができる「活用シート(学校用・生徒用)」(R6作成)を活用し、生徒の英語学習への意欲向上や指導改善を図る。
  - ・Tottori English Challenge Program2025  
→中学生・高校生を対象とした3日間にわたるスピーキング力育成講座
  - ・オンラインスピーキング補助事業  
→オンライン英会話及びAI型英会話を導入する自治体を財政補助
- ①②①②③「言語活動を通じた指導」及び「指導と評価の一体化」の推進
  - ・中・義務教育学校外国語(英語)訪問  
→外国語担当指導主事等が県内全公立中学校を訪問し、授業参観及び事後協議を行い指導改善を個別に支援
  - ・AIを活用した英語教育強化事業  
→生成AI等を活用した授業づくりを行うことができる中学校英語教師を育成するとともに、モデル校での実践を検証する。 ※外部有識者支援
  - ・各種研修会(動画配信含)  
定期考查研修会(中学校・英語) ※外部講師招聘  
生成AI等を活用した授業づくり研修会 ※外部講師招聘  
教育課程研究集会
- ③小中連携の推進
  - ・鳥取県英語教育推進フォーラム  
→小・中・高等学校全ての校種の英語担当教員を対象とし、校種間の学びの連続性に関する外部講師による講演やワークショップを実施
  - ・小中連携のための動画周知

# 令和7年度 鳥取県 英語教育改善プラン

【鳥取県が目指す小・中・高等学校で一貫した英語教育の姿】言語活動を通して英語4技能をバランスよく育成する  
(高等学校) **英語で発信し議論する力の育成**

## 目標

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合  
(R6: A2以上 52.0%、B1以上 14.3% ⇒R7: A2以上 53.0%、B1以上 20.0%)

言語活動  指導と評価の一体化  教師の英語力・指導力  校種間連携  ALTの参画  ICTの活用  AIの活用  その他  
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

## 1. 目標に対する現状

### 改善が進んだ点

- ①**生徒の英語力**  
CEFR A2以上の英語力を有する生徒の割合が増加。  
(R5:51.0%⇒**R6:52.0%**)
- ②**教師の英語力**  
高い英語力を有した教師の割合が増加。  
(CEFR B2 R5:99.1% ⇒**R6:100%**)  
(CEFR C1 R5:10.4% ⇒R6:12.8%)
- ③**生徒の英語学習への意識**  
県独自調査で「英語学習が好き」と回答した1年生の割合が顕著に増加。  
(R5:55.1%⇒**R6:56.2%**)

### 未だ改善が必要な点

- ①**高い英語力の生徒の割合**  
CEFR B1以上の英語力を有する生徒の割合は低い。  
(R5:17.6%⇒R6:14.3%)
- ②**言語活動割合**  
言語活動割合が低下。特に総合・専門学科ではその傾向が顕著。  
(R5:53.1%⇒R6:44.2%、総合・専門学科12.5ポイント減)
- ③**教師の英語使用割合**  
発話の半分以上を英語で行う教師の割合が顕著に低下。  
(R5:32.0%⇒R6:20.0%)

## 2. 要因分析

- ①外部検定試験の活用と各領域及び3観点を意識した指導及び評価の改善の成果等と考えられる。
- ②教員採用試験における有資格者の優遇措置により、高い英語力を有した教員の割合が高まったため等と考えられる。
- ③各種研修会において中高連携の重要性について周知したり、各校において中学校での学びを踏まえた指導が実践されている成果と考えられる。また、ALTやICTの活用により、英語を使いながら学ぶ機会の充実が図られていることも一因と考えられる。
- ①CEFR A2以上の英語力を有する生徒の割合が多い学校において、CEFR B1以上の英語力を持つ生徒の育成について目標が共有されていないことや、個に対応した指導が十分ではないことが要因と考えられる。
- ②③ 教科書等の英文を理解することが困難である生徒が多い状況や、英文理解のための文法や語彙等に関する日本語による説明の授業時間に占める割合が増えている状況が推察される。

## 3. 目標を達成するための施策・事業

- ◎**外国語指導助手等充実事業**
- ①③②**外国語科（英語）**における生徒の学習意欲を高める指導と評価に係る研修会  
→表現力の育成のための単元計画の立て方並びに生成AIを活用した書くことの指導と評価の実践力を高める。
- ③①②③**外国語指導助手（ALT）の指導力等向上研修会**  
→ワークショップ型スキル向上トレーニング研修を行い、チームティーチングにおける言語活動の推進と質の向上を図る。
- ①**ネイティブスピーカーと過ごす中高生合同の英語での発信力養成キャンプ**  
→中高生がALTと外部ネイティブスピーカーから「話すこと」の指導を受け、英語力とグローバルに活躍しようとする意欲を高める。
- ◎**世界に羽ばたく人材育成事業**
- ①⑥**グローバルリーダーズキャンパス**  
→米国スタンフォード大学と連携したオンライン授業。社会的な話題についての講義やディスカッションを通し、高度な英語力とグローバルマインドの育成を図る。
- ①①**各種海外派遣及び留学支援**  
→1年程度の留学支援、学校単位の海外派遣プログラム支援、韓国江原道の国際フォーラムへの派遣及びニュージーランド・クライストチャーチとの相互派遣プログラムを実施し、多様性への受容態度を育成し、実践的に英語を学ぶ機会を提供する。
- ◎**その他**
- ②①②③**教育課程研究協議会**  
→学習指導要領の趣旨理解や、県英語教育の現状や課題についての情報提供、国際交流についての好事例の紹介、各校の英語教育の実践に係る情報交換を通し、指導と評価の改善につなげる。
- ③②**英語教育推進フォーラム**  
→小・中・高等学校の英語担当教員が一堂に介し、校種間連携に関するテーマに基づいた実践発表や講演を実施。
- ①③①②**生成AIを活用した英語力向上事業**  
→生成AI教材を生徒が活用し、個別最適な学習環境を整備し、高度な英語の発信力を高めたり、オンライン国際交流をとおり、英語学習の意欲を高める。

鳥取県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	52	51	52	52	53		54		55		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	40	17.6	20	14.3	20		24		28		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	60	53.1	60	44.2	60		65		70		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	65	51.5	65	53.7	65		70		75		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	60	45.5	60		60		65		70	
⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	99	99.1	100	100	100		100		100			
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	50	32	40	20	40		45		50			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	51	52	52.5	54		55		56		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	80	64.9	80		80		80		80		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	90	76.2	100		100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	70	55.4	70		70		75		80	
		達成状況の把握(%)	70	57.1	70		70		75		80	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	40	40	43	40.2	45		48		50		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	75	67.9	75		75		80		80			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	90	77.3	90		100		100		100
		公表(%)	50	49.6	70		60		65		70
		達成状況の把握(%)	80	63.9	70		60		65		70